

テーマ「高校生が考えるケータイ・スマホの危険性への取組」

副題 ～これからスマホを持つ小・中学生とその保護者に向けて授業をしよう！～

実施主体：兵庫県猪名川町青少年健全育成推進会議

協力団体：兵庫県立大学 竹内研究室、(株)DeNA

後援団体：内閣府、総務省、兵庫県警察本部、兵庫県教育委員会、兵庫県青少年本部

猪名川町、猪名川町教育委員会、一般社団法人川西青年会議所、デジタルアーツ(株)、ソフトバンクモバイル(株)

《取組の概要》

近年、青少年を取り巻く環境が急激に変化する中で、特に高校生のスマートフォンの所持率は8割を超え、今や様々なツールを利用したネット利用は社会生活の中でなくてはならないツールとなっている。しかしながら、スマートフォンやインターネットを実際に利用する中・高生のネット利用モラルやルールについては、未だ確立されていないのが現状である。このような現状を踏まえ、猪名川町青少年健全育成推進会議 SWING-BY実行委員会では、昨今、大きな社会問題となっている未成年の携帯電話やスマートフォンの不適切な利用による児童・生徒によるネットトラブルを未然に防ぐため、スマートフォンを持ち始める年代に対し、SWING-BY実行委員の高校生が小中学生とその保護者に向けて正しい利用の方法やネットトラブルを回避するための注意点について、高校生自身が作成した「スマホの教科書」や「スマホの啓発ドラマ」を作成し授業を行うことで、青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための取組を行うことを目的とする。

1 本事業に取り組んだ理由(課題を含めて)

猪名川町青少年健全育成推進会議主催の「BEAT実行委員会」(町内の高・大学生で構成、H.22～24)のメンバーによるスマホでのSNS 投稿問題をきっかけに、町内の小・中・高生が様々な犯罪被害等の被害者や加害者になることのないよう、大人と若者達が一緒になってこの問題に立ち向かっていくために「SWING-BY実行委員会」(町内の高・大学生で構成、H.25～現在)と名称を改め、「若者の社会貢献の場づくり」「若者育成」「市・町民力の育成」を中心に活動。年間を通してのボランティア活動を始め、スマホ問題の啓発活動等に取り組んでいる。

2 実施スケジュール

- 平成25年12月 町内全中学校及び県立猪名川高等学校へケータイスマホアンケート調査(回収率100%)
※ 集計:(株)DeNA 分析:兵庫県立大学竹内准教授・同研究室
- 平成26年 1月18日(土)猪名川スマホサミットにおいて「INAGAWAスマホサミット宣言」採択
- 平成26年 3月28日(金)スマホ座談会 at INAGAWA 開催
※高校生により小学生へのスマホ授業実施及びスマホの教科書作成を表明
出席者:町長、教育長、総務省近畿通信局、県警本部サイバー犯罪対策課、EMA、(株)DeNA 竹内准教授
- 平成26年 4月～10月 スマホの授業に向けて放課後会議を行う(概ね17:00～22:00に32回実施)
※公式会議(SWING-BY実行委員会スマホ部会)以外にも自主的な打ち合わせ 相当回数実施(テスト期間除く)
※8月の1ヵ月間をSWING-BYプロジェクト期間と定め毎朝 能勢電鉄日生駅前の自主的な清掃活動を行うと同時に、あいさつ運動を展開しながら活動内容の広報周知活動を実施
- 平成26年 6月 町内小1～中3、県立高校2校へ第2回目のアンケート調査実施(回収率100%)
- 平成26年 6月22日(日)県立大学竹内准教授によるスマホの教科書策定についての直接指導を受ける
- 平成26年 7月30日(水)兵庫県警察少年非行防止研修会に参加し、スマホに関する研修の補助
- 平成26年 8月21日(木)スマホ啓発ドラマ撮影
- 平成26年 9月27日(土)兵庫県立大学へ出向きスマホの授業についての直接指導を受ける(1回目)
※指導に当たっては竹内研究室の学生から授業実施についての注意点のレクチャーを受け模擬授業を実施
- 平成26年10月12日(日)兵庫県立大学へ出向きスマホの授業についての直接指導を受ける(2回目)
※指導に当たっては竹内研究室の学生とマンツーマンにより実戦練習
- 平成26年11月 1日(土)スマホの授業 リハーサル実施
※兵庫県立大学 竹内准教授及び研究室学生立会のもと実施
- 平成26年11月 2日(日)高校生によるスマホの授業!～ちょっと待ってケータイ・スマホ～ 実施
- 平成26年11月 9日(日)午前 第56回 日本教育心理学会において事例発表
- 平成26年11月 9日(日)午後 第1回関西スマホサミットに参加
- 平成26年11月15日(土)教育関係者のみに「INAGAWAスマホサミットクロージド」開催(第2回アンケート結果発表)
- 平成26年12月13日(土)日本教育心理学会公開シンポジウム～東京大学弥生講堂～へ9名参加
- 平成26年12月14日(日)「OSAKAスマホサミット」に参加
- 平成27年 1月31日(土)次世代防犯ボランティアリーダー育成研修会へ兵庫県代表として11名出席
- 平成27年 2月1日(日)むこがわCAP主催の小中学生のスマホの授業実施(午前・午後の2回授業)
- 平成27年 2月15日(日)猪名川町白金小学校区まちづくり協議会へスマホの授業実施(対象者:地域住民)
- 平成27年 2月21日(土)第2回INAGAWAスマホサミットにおいて高校生から小中学生への公開スマホの授業実施
※新スマホ宣言採択、大人のスマホ宣言採択(町PTA連合会、(一社)川西青年会議所、町青少年健全育成推進会議 合同採択)
※主な後援団体:内閣府・文部科学省・総務省・警察庁・兵庫県・兵庫県教育委員会・兵庫県警察本部(株)ディー・エヌ・エー 等多数
- 平成27年 2月28日(土)スマホサミットinひょうごに参加!活動事例プレゼンにおいて最優秀賞受賞
記載した内容以外にも、地域のイベントへボランティアで参画・福祉施設訪問等多数実施



(INAGAWAスマホサミット)

3 事業展開

平成25年度

- ①町内の中・高生にアンケート実施(SWING-BY実行委員会作成)
- ②(株)DeNAに集計、兵庫県立大学竹内研究室に分析を依頼
- ③アンケート結果をもとに、H.26.1.18「第一回INAGAWAスマホサミット」開催
- ④「第一回INAGAWAスマホサミット」において、「INAGAWAスマホ宣言」を採択
 - ・自分たち自身でルールを作る(〇〇時まで...)
 - ・リアルなコミュニケーションを大切にする
 - ・書いていかダウンロードしていか、立ち止まって考える
- ⑤「スマホ座談会atINAGAWA」(H.26.3.28)開催
 - ・猪名川町長、教育長、EMA、県警本部、近畿総合通信局の方々、SWING-BYメンバーによる座談会。サミット宣言から継続して、青少年のスマホやインターネット利用に関するルール「スマホの教科書」「スマホの啓発ドラマ」を作成し、町内の小中学校へ「出前授業」を地域団体や行政機関と連携し、現実的な事業につなげ展開することを宣言。



(スマホ座談会INAGAWA)

平成26年度

- ①「スマホの啓発ドラマ」作成
- ②「スマホの教科書」作成
- ③町内の小1～中3全員、県立高校2校全員へスマホに関するアンケート第二弾(SWING-BY実行委員会作成)を配布回収(3,928人)
(小学校高学年には「アダルトサイト」、高校女子には「リベンジポルノ」についてを含む)
- ④「スマホの出前授業」実施
- ⑤日本教育心理学会にて事例報告～「関西スマホサミット」参加
- ⑥アンケート結果をもとに「スマホサミット クローズド」開催
- ⑦日本教育心理学会公開シンポジウム(於東京大学)参加
- ⑧「スマホサミットin大阪」参加
- ⑨「INAGAWAスマホサミット2015」開催
- ⑩「スマホサミットinひょうご」にて奨励賞授与
- ⑪兵庫県警本部より「感謝状」授与



(「スマホの啓発ドラマ」作成)

4 事業の成果(効果)

- ・スマホに関する調査を進め、携帯電話やスマートフォンを持ち始める小学校3～中学生をターゲットに、「スマホを持っている子も持っていない子もこれから持つ子にも」わかりやすくスマホの使用方法や注意点を授業することによって、より一層の効果が得られている。
- ・地域の団体(町内まちづくり協議会等)や町外からのオファーを受け、大人に向けての「スマホの授業」を実施し、子供たちのスマホ利用の実態や使用方法の注意点等を伝えることができた。また、高校生たちの生の声を届けることによって、彼らを取り巻くネット環境や利用状況等を一緒に考える時間を共有できた。
- ・「スマホの教科書」を4,000部作成し、町内の小中学校の皆さんに活用していただくように、スマホサミットの中で実行委員長より教育長へ手渡した(手交式)。新学期以降、情報担当教諭等から全児童・全生徒へ配布予定で、授業の中で活用される。
- ・「スマホの啓発ドラマ」を2本作成し、スマホの授業の中で使用。小学生にとっては、パワーポイントによる文字や絵の説明だけでなく、動画を交えることによって「よりわかりやすい」という効果があった。
- ・実行委員たちにとっても、異年齢の小学生から高齢者と関わることによって、たくさんの経験をし、「リアルな関係を充実させる」という点でも、より一層の成長を遂げることができた。
- ・実行委員は40名を数えるが、全てのメンバーが授業ができるよう練習を行っており、SWING-BY実行委員会は高校生によるこのような取組を更に広げていくことを目指しており、要望があれば地域だけでなく日本中・世界中、交通費さえ負担していただければ何処へでも出前授業に伺う予定。
- ・既にスマホの啓発ドラマの続編3本の作成に取り掛かっており、新たなスマホに関する問題にも即座に対応できるよう心掛けており、スマホの授業もバリエーションをかえ実施するため情報収集活動にも積極的に取り組んでいる。



(スマホ授業)



(スマホ教科書)

5 事業を成功させるためのポイント

地域の社会教育団体が実施する取組として、中高生や大学生が主体となって企画・検討の段階から活動する事業をサポートするために一番の難しいポイントは、「主体となる若者に一旦すべての答えを出させること」であり、若者が考える企画に対し協議検討する段階から「口を挟まず見守る」ことが事業展開の第一段階である。

若者が出した結論に対し、第二段階として社会的な制約の面を大人が若者に説明し、予算や費用面で可能か不可能か「一緒になって考える」こと、地域住民に参画してもらうための「効果的な手法を共に考える」ことなど、若者が考えた企画を具体化する作業をこの段階で実施することで、今後大人と若者双方の役割を明確にします。

最終段階として、大人は企画の内容を吟味し「各種行政機関」や「他の地域の社会教育団体」との連携を図るための行動を開始する。また、若者は企画の目指すべき方向性を若者同士で共有し、役割分担を行いそれぞれの担当した役割を果たしていくこととなるが、この段階ですべての役割に大人はサポーターとして機能する必要がある。

最後に、事業の本番を迎える段階では、大人も若者も「できない理由」を探さず口にせず同じ目標に向かって、「どんな障害があっても事業をやり遂げる気持ち」を持つことが一番の成功のポイントであると考え実践している。

6 今後の展開(継続・発展させていくために)

今後の事業展開については、既に若者たちから様々な企画が提案されており、特に現在取り組んでいるスマホ関連の継続事業として、「スマホやネットに関する取組を世界に発信する」ことが一番に挙げられる。

具体的には、世界での若者のスマホやネット利用の現状を調査し、それぞれの国や地域が抱える問題や課題を明確化し、国内においての状況と比較し解決手法を模索することを予定しており、自費とはなるが「若者の代表者1名程度を他国に派遣し世界の状況を直接現地にて学んでくる事」を現在の事業の発展形としてとらえており、その結果については青少年のネットリテラシーに取り組む各種団体にフィードバックしていくことを目指す。

また、高校生を中心とする若者については、国の行政機関及び企業や大学と連携し、スマホやネットの正しい利用方法を身につけるための「青少年向けや保護者向け等のアプリケーションの開発」を予定しており、アプリケーションの作製については、高校生が主体的にプログラミングを行うこととしている。

上記以外にも、サポートする側の我々大人は若者から発案された「自由で何物にもとらわれないクリエイティブな発想から生まれる様々な企画や事業」を実現させる取組を行うことに全力を注ぐ。

7 その他

SWING-BY実行委員会では、上記で紹介したスマホをはじめとした青少年のネットリテラシーに関する取組の他にも、「地域のボランティア活動」や若者が企画運営する「ステージイベント」の開催など、様々な取組を並行して実践している。

下記に示す活動はその一例であるが、全てが若者からの発案である。

☆毎週 火曜日・土曜日 の午前7時半から能勢電鉄日生中央駅前広場の「清掃活動」と「あいさつ運動」

☆地域の夏祭りや行事の準備お手伝い ☆8月最終日曜日に開催する「ステージイベントの企画・運営」

☆少年警察ボランティアとして警察と連携した青少年非行防止活動 ☆福祉施設への訪問活動 etc

8 参考資料等

☆「Swing-By」facebookにて専用ページを開設中(活動状況をリアルタイムで更新しています)

☆「猪名川町HP」(<http://www.town.inagawa.lg.jp>)

☆インターネットリテラシー・マナー等向上事例集及び同概略版に掲載(平成26年10月28日 総務省公表)

☆新聞紙面掲載多数